



7月21日に新潟地方気象台が発表した1か月予報（7月23日～8月22日）では、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間は平年並みか多い見込みです。高温登熟による品質低下を防ぐため、葉色が極度に退色している場合や地力の低い圃場では出穂3日前に硫酸5kg等（窒素成分で1kg）の散布を検討してください。（基肥一発肥料施用圃場含む）

## 稲作技術情報

### ○生育状況（7月20日現在）

【コシヒカリBL】管内17カ所調査圃平均、田植え日平均5月18日

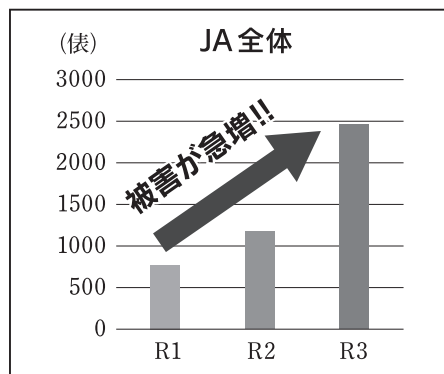
調査内容	今年	前年	前年比	指標値	指標値比
草丈(cm)	77.6	77.7	100%	75.0	103%
莖数(本/m <sup>2</sup> )	431.2	429.6	100%	410.0	105%
葉数(枚)	11.8	11.6	102%	11.7	101%
葉色(SPAD値)	32.6	34.2	95%	33.5	97%

7月20日現在の生育は、草丈「並」、莖数「やや多い」、葉数「並」、葉色「並」の状況です。

### ○斑点米カメムシ類の防除について

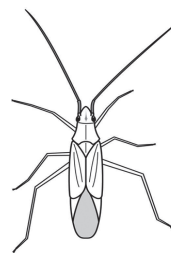
本年の病害虫発生予察では、イネ科雑草の多く生えている畦畔では、多数のカメムシが捕獲されています。カメムシは畦畔から飛来するため、畦畔草刈りを徹底し、適期に薬剤防除を行いましょう！

近年の斑点米による格落ち



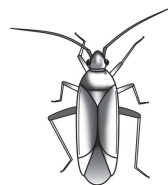
当JA管内では斑点米カメムシによる格落ちが急増しています。

被害となる斑点米カメムシ類（例）



【アカヒゲホソミドリカスミカメ】

体長：約6mm（成虫）  
特徴：全体的に淡緑色で触覚が赤い。体の幅はアカスジよりもやや細い



【アカスジカスミカメ】

体長：約5mm（成虫）  
特徴：アカヒゲよりやや小さく、全体的に赤っぽい

### 【斑点米カメムシ類の防除薬剤】

薬剤名		散布量（10a当たり）	散布適期
スタークル	粒剤	3kg	出穂期～出穂期7日後
	粉剤DL	3kg	出穂期3日後（穂揃い期）～7日後
	液剤10	1,000倍液を60～150ℓ	
キラップ	粒剤	3kg	出穂期～出穂期7日後
	粉剤DL	3～4kg	出穂期3日後（穂揃い期）～7日後
	フロアブル	1,000～2,000倍液60～200ℓ	

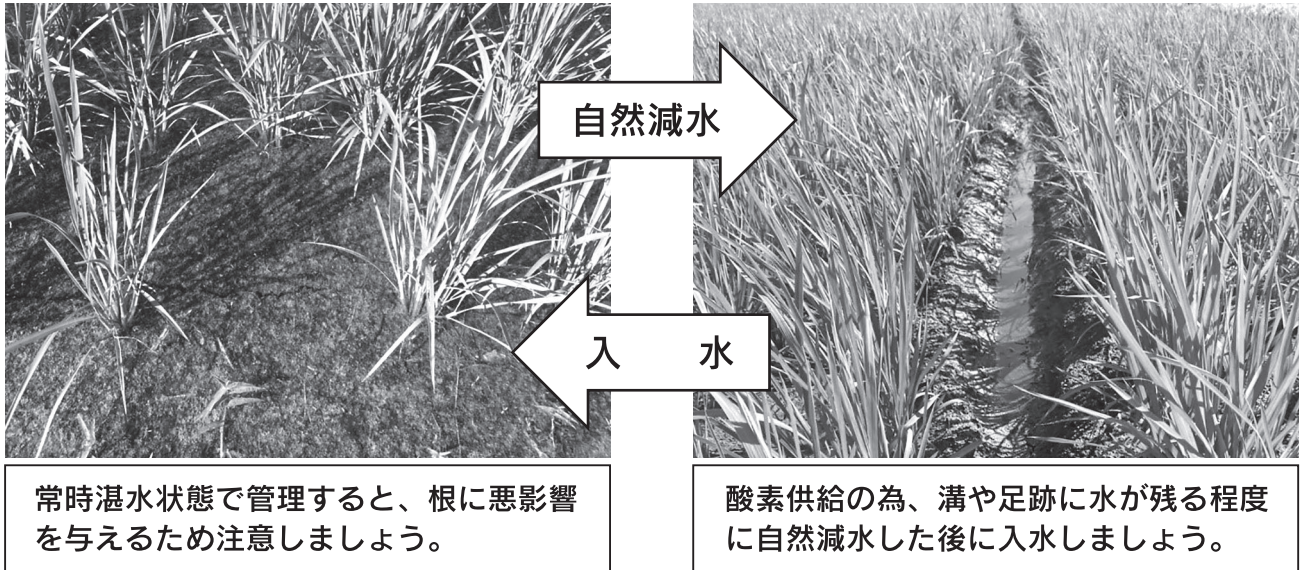
※農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、登録内容を厳守してください。

# 基本技術の励行「登熟期の適切な水管理の徹底」

## ○出穂後の水管理 ～適切な水管理で稲体の活力を維持!～

出穂後25日間は、「水尻を止めた状態で入水と自然減水を繰り返す」水管理を行いましょう。出穂期前後は、特に水が必要な時期になりますが、圃場条件にあった水管理を行ってください。また、入水後は自然落水をして、溝や足跡に水がたまっている箇所が散見されたらかん水するようにしてください。

### 【今後の水管理イメージ】



常時湛水状態で管理すると、根に悪影響を与えるため注意しましょう。

酸素供給の為、溝や足跡に水が残る程度に自然減水した後に入水しましょう。

※地耐力が確保されていない圃場では、田面の露出する日数を長めに設けることで徐々に地耐力を確保しましょう。

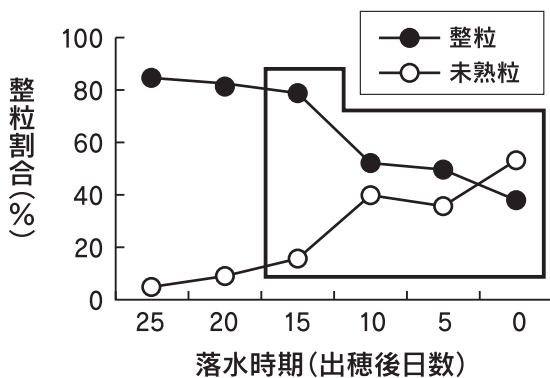
## ○最終かん水日を設定しましょう！

後期栄養を維持するために出穂後25日までの水管理による水分補給が重要です。根の機能を維持するとともに地力窒素を吸収し、下位葉の枯れ上がりを防ぐことで倒伏防止や登熟向上に繋がります。

地耐力を維持しにくい圃場では、最終かん水日を設定し、土壌水分の補給を行いましょう。

※最終かん水日…降雨がない場合の、8月下旬の最後の入水日

【落水時期と品質 (H4 新潟農試)】



落水時期が早いと整粒が減少し、未熟粒が増加する。

【落水時期と収量・収量構成要素及び品質 (H5 新潟農試)】

落水時期 (出穂後日数)	登熟歩合 (%)			千粒重 (g)	収量 (kg/a)
	1次枝梗	2次枝梗	合計		
0	90.8	63.0	80.5	21.2	54.9
5	92.5	63.2	81.7	21.2	55.9
10	93.3	76.3	86.6	21.6	57.4
15	94.0	77.8	87.7	21.6	67.4
20	91.4	73.2	84.5	21.6	57.5
25	93.4	70.7	84.9	21.7	58.3

落水時期を遅くするほど登熟歩合と千粒重が安定し、収量が増加する。

## 秋野菜の作り方 (ハクサイ、ダイコン)

### 夏場の育苗のポイント5つ

- ① 高温時の直播き、箱蒔き等は、は種後～発芽まで切りワラやもみ殻をかけておくと乾燥防止になり発芽揃いも良く、降雨による土の跳ね上がり防止にもなります。
- ② 発芽してきたら、苗に光と風が当たるようにします。
- ③ ポット育苗にする苗の間引きは本葉が1～2枚出たころに行います。  
大きすぎるもの、小さすぎるもの、葉の形や色が異なるものを間引きます。
- ④ 育苗中は、苗の伸び過ぎを抑えるために、かん水を少なくして乾燥気味にします。  
かん水は原則午前中に行いますが、高温時は、夕方に鉢土の表面が乾く程度を目標に、朝のかん水だけでなく昼前と昼後に葉への水やりを行い、徒長を防ぎガッチリした苗を作ります。
- ⑤ 追肥は、育苗期間中に生育を見ながら、液肥400倍を1～2回程度施します。  
上記ポイントを参考に、秋野菜の育苗を行いましょう。

## ★ハクサイ (年内収穫)

### 1. は種時期

は種や定植時期が遅いと結球しない(葉が巻かない)ことがあるので、収穫時期に適した品種選定と作型設定する。

〈早生品種〉：葉重型 葉数40枚で球ができ、は種適期が広いです。

〈中生品種〉：中間型

〈晩生品種〉：葉数型 葉数を多く確保することで球になります。  
晩生品種ほど早くは種して大玉にします。



### 2. 主な品種と特性

品種	特徴	収穫可能目安	球重
耐病六十日	各種病害に強く、生育が旺盛で作りやすい極早生種。 外葉がコンパクトで、密植栽培が可能。 根張りが強く、栽培適応幅が広い。	は種から 60～65日	2.3kg
豊秋60日	黄芯系品種。 夏蒔き、秋収穫に適している。	は種から 60～65日	2.5kg
CR千秋65	根コブ病抵抗性品種。	は種から 60～65日	2.5kg
豊秋85日	晩生大玉品種	は種から 60～65日	4.0kg

### 3. 本畑の準備

定植1週間前には肥料を混和し準備を行う。

#### 【施肥例】

10㎡当たり

肥料名	施肥量		備考
	基肥	追肥	
完熟たい肥	20kg		追肥の目安 1回目：定植10日後、活着したら 2回目：定植1か月後
粒状苦土炭カル(M-10)	1kg		
MMB燐加安	2kg	0.5kg×2回	

◎同時に病害虫の予防も行う。

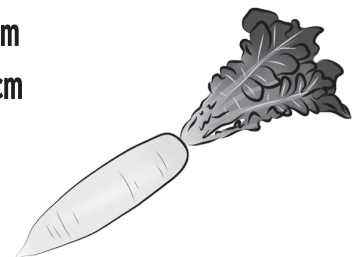
- ・根コブ病・黄化病予防……フロンサイド粒剤 400g/10㎡ もしくは  
ネビジン粒剤 300g/10㎡を全面土壌混和
- ・軟腐病予防……オリゼメート粒剤 60～90g/10㎡を全面混和
- ・ネキリムシ・ケラ・コガネムシ類幼虫予防……ダイアジノン粒剤 5 40g/10㎡を全面混和

### 4. 定植

は種後25～30日で定植する。本葉4～5枚程度の若苗で植えるほうが良い。  
また、早生品種はやや密植、中晩生は大きくなるので畝幅・株間を大きくする。

#### 栽植密度

早生品種 畝間75cm×株間40cm  
中晩生品種 畝間80cm×株間50cm



### 5. 雑草・病害虫防除

雑草が心配な場合は黒マルチまたは、除草剤を使用する。

#### (1) 除草剤の使用法 (畑地1年生雑草に効果)

10㎡当たり

薬剤名	使用時期	使用量		使用方法	薬効など
		薬量	希釈水量		
ラッソー乳剤	は種直後	1.5ml	1ℓ	全面土壌 散布	キャベツに使用するとき は定植8日後まで使用可。
トレファノサイド 粒剤2.5	定植前、 植穴掘り前	40～ 60g		全面土壌 散布	ツユクサ・アブラナ科・ カヤツリグサ科、キク科 を除く
ゴーゴーサン 細粒剤F	定植前 (雑草発生前)	40～ 60g		全面土壌 散布	

※薬剤により適用作物や使用時期が異なるため十分ご注意ください。

#### (2) 害虫防除

- ◎アオムシ・コナガ・アブラムシ類予防には定植時に、スタークル粒剤を2～3g/株、または  
ダントツ粒剤2g/株を植え穴に散布します。
- ◎植え付け直後は、コオロギ・ハスモンヨトウ・ネキリムシに茎を食害されやすいので、ネット  
を利用するかデナポン5%ベイトを散布します。

# ★ダイコン

## 1. は種時期

は種・定植が遅いと肥大不足になり、は種・定植が早いとす入りが発生し品質を落とします。8月下旬～9月上旬（少し遅めには種すると良い）1穴に3～4粒、畑に直接タネをまき、本葉5枚までに1本残して間引きます。タネまき後、60日ぐらいで収穫できます。

## 2. 主な品種と特性

品種	特徴
耐病総太り	作りやすく、す入りが遅く、甘い青首の最高峰。煮ても漬けても生でも美味しい。
耐病宮重	白肌と青首のコントラストが良く、耐病性も抜群の青首長太大根。煮物から生食と利用範囲は広いが、細長い形状から漬物用にも適する。

## 3. 本畑の準備

10㎡当たり

肥料名	施肥量		備考
	基肥	追肥	
粒状苦土炭カル(M-10)	1.2 kg		追肥目安 間引き終了後
苦土重焼燐	0.3 kg		
ケイ酸加里	0.3 kg		
MMB 燐加安	1.4 kg		
NK 化成		0.2 kg × 2 回	

## 4. 間引きのポイント

- ① 貝割葉が完全に開いたときに込み合ったところを間引く。
- ② 本葉2～3枚の時期に間引いて2本にする。
- ③ 本葉3～5枚の時期に間引いて1本立ちにする。

## 5. 害虫防除

◎きれいな果皮になるように、は種前に虫の防除を実施します。

キスジノミハムシ幼虫発生防止のために、は種前に薬剤散布をしましょう。(キスジノミハムシの幼虫は根を食害し成虫は葉を食害します。)

10㎡当たり

薬剤名	使用時期	使用量	使用方法
スタークル粒剤	は種時	40～60g	播溝土壌混和
ダイアジノン粒剤5		40～60g	作条土壌混和
アベイル粒剤		60g	播溝土壌混和

# JAからのお知らせ

## ★「JAみなみ魚沼米」栽培記録・GAPカード提出について

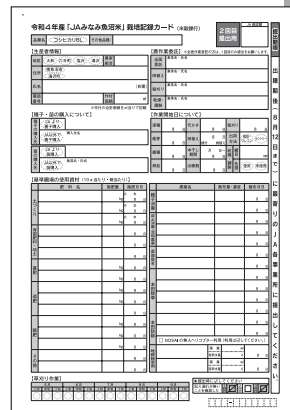
栽培記録カードの**第2回目**を提出期限までに提出をお願いします。

1. 提出書類：栽培記録カード第2回目

- ・全品種用：黄色用紙
- ・特別栽培米用：5割減(3ページ目)  
8割減無農薬(8ページ目)

2. 提出場所：アグリセンター大和・しおざわ基幹センター  
各支店窓口

3. 提出期限：**8月12日(金)**



## アグリルックで圃場を見える化!!

衛星写真による圃場毎の葉色マップや出穂期予測、  
積算温度をスマホやタブレット等から確認できます。  
ぜひご活用ください!

ユーザID：user パスワード：user

スマホの場合



タブレット・  
パソコンの場合



またはURLを入力

URL：<https://www.agrilook-info.jp/minamiuonuma/>



## LINE 登録者募集!!

近年の気象変動による品質低下の影響もあり、さらに迅速  
かつ分かりやすい営農情報の伝達を図るために携帯アプリ  
「LINE」を導入しました。  
右のQRコードより登録をお待ちしております。

登録お待ちしております!!



JAみなみ魚沼 営農部  
LINE QRコード



次号「あぜみち」予告

- 稲作…出穂後の積算温度
- 園芸…秋野菜の定植

ご不明な点がございましたら、JAみなみ魚沼営農指導課  
(アグリセンター大和：Tel777-3786 しおざわ基幹センター：Tel782-1171)  
までお問い合わせください。